

# 1 自己評価及び外部評価結果

## 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4490600048		
法人名	(有)あすとぴあ		
事業所名	グループホーム望喜家		
所在地	臼杵市大字江無田1100番地		
自己評価作成日	平成27年4月8日	評価結果市町村受理日	平成27年7月13日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	
----------	--

## 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	福祉サービス評価センターおおいた		
所在地	大分県大分市大津町2丁目1番41号		
訪問調査日	平成27年4月30日		

## 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

開設以来取り組んできたことが2点あります。1点目は、利用者本位という事を念頭に置いて利用者に接してきました。例えば、夕食後に入浴されていた方がいらっしゃったことから、夜間9時までは入浴ができるように職員のシフトを変更しました。また、おやつの際に、飲み物のメニューを作り、利用者様に選んで頂いています。施設は昼間は一切、施設せず、帰宅願望を訴えられ外に出られる利用者様は引き止めず、職員と一緒に歩く等、徹底して行ってきました。もう1点は、地域に福祉を届けるということです。年に2回、地域の方を施設に招いて、認知症に関する公開講座を開催しています。職員が企画し、回覧版を使ったり、近所のスーパーやお店にポスターを貼らせてもらい告知を行っています。また、職員が、認知症キャラバンメイトの研修を受け、市のシルバー人材センター等で認知症サポーター養成研修を開催しています。

## 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

- ・理念に沿った支援が行われ、利用者の思いを大切にしている。
- ・開設当初の取組みが継続され、利用者の意見をもとに献立・買い物・食事作り・片づけなど潜在能力を活かした家庭的な食事づくりが行われている。
- ・入浴が毎日できるように、希望に沿って支援している。毎日入る方や夜間入浴も行われている。
- ・看護師がおり、近隣の医療施設と連携がとれ、適切な医療が受けられるようにしている。
- ・外出支援が多く、利用者の希望に沿った支援である。図書館やコンビニ・喫茶店・美容院・昔の職場などに外出している。

## V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当する項目に○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、朝礼の中で管理者・職員共に声を出し理念を復唱している。そのことにより、日々の利用者様のサービス提供時に理念と提供するサービスが一致するようにしている。	理念の、「ここで生活してよかったと心から喜んでもらえるケア」を合言葉としている。毎朝、唱和し定期的に振り返っている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	近くのコンビニやドラッグストア、ケーキ屋に外出し、買い物をしている。週に1度、利用者様と職員と近所のゴミ拾いをしている。また、利用者様の顔なじみの美容院にお連れしたり、自宅に行ったり、自宅の近所の友人宅を訪ねたりしている。	コンビニや病院・ドラッグストアなどに出かけ、住民と触れ合いの場としている。また、散歩を兼ねゴミ拾いの清掃活動をしている。住民向けに「認知症ケア」の公開講座を年2回開くなど、地域に貢献している。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	年に2回、施設において地域の方に来て頂き、認知症に対する勉強会を開催している。また、認知症キャラバンメイトの研修を受けたものが、地区の方や市内の団体にサポート養成講座を開講している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	区長や民生委員の方、包括支援センターや市の高齢者福祉課の方が参加して下さって意見を言ってもらっている。また、ご家族も必ず、参加して下さり、意見を言ってもらっている。また、施設内の各委員会の委員長も参加し、報告をしている。	運営推進会議では、家族に案内状を送付し参加を促している。区長や市の職員・地域包括支援センター・家族2~3名が参加している。ヒヤリハットの報告や各委員会より取り組み状況等を報告し、参加者より意見をもらい運営に反映している。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議に市の高齢者福祉課の職員の方が毎回参加しているので、施設の意向や取り組みを分かってくれ、ご家族の意向や要望を直接聞きとる機会を設け、協力関係を築くように取り組んでいる。	運営の疑問点は、市の担当者にて些細なことでも聞くようにしており、市職員は積極的に関わってくれている。2ヶ月に一度の運営推進会議に市職員も参加し、協力体制が構築されている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介指基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	全職員が身体拘束の内容と弊害を認識し、身体拘束の禁止に向け、日々努力しています。よって玄関にも施錠はしていません。ご家族へも説明し、納得して頂いています。	身体拘束の弊害を正しく認識し、玄関の施錠をせず「拘束をしないケア」に努めている。落ち着かない表情をしている場合は、ドライブなどに誘い穏やかさを保つようにしている。拘束について、年に一回、外部及び内部研修を行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	虐待防止の為に研修を開き、全職員にアンケートを実施し、面接を行う事により虐待を未然に防ぐように努力しています。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	事務長を中心に成年後見制度の研修に参加している。また、日常生活支援についても利用されている入居者様がいらっしゃる為、社協の方と話し合いを繰り返している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居前には必ず来所して頂き、ご本人とご家族に施設の方針を話、納得して頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時にはご家族と話をしている。毎月、職員からご家族へ手紙を送っている。年に1回、ご家族へのアンケートを実施し、要望や意見を聞いている。年に1回家族会を開催し、意見をサービスに反映するようにしている。	年1回運営に関するアンケートを行い、要望や意見を把握している。また、家族との面会時や毎月の広報誌に写真・手紙を添えて近況報告を行っている。家族に意見や要望を聞き、運営に反映している。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	職員主導の委員会制度を設け、全体会議において改善策等を提案し、全員で決定する機会を設けている。	2ユニットの職員が各委員会に所属し意見を出し合っている。それぞれの意見は、全職員の定例会議の中で報告し、改善策は会議で検討し業務改善につなげている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	代表者もよく現場に来て、職員と接し、意見を聞いてくれている。そのことにより現状の把握に努めている。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	施設内研修や施設外の研修を充実させている。施設外研修においても可能な限り職員を積極的に参加させている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	他の施設の方とチームになり、意見の交換や他県の施設を見学する機会を設けている。また、懇親会等も行い、情報交換をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	ご本人の意思を始めに聞き、ご本人に合わせて行動している。環境面にも気をくばりなるべくご自宅で使用されていたものを使って頂き、少しでも安心できるようにしている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族からの意見や思いに耳を傾けて、今までの生活やご本人様の事を少しずつ引き出し、安心して話して頂くようにしている。苦情等を話される場合は速やかに会議を開き、話し合いを行っている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人とご家族が『その時』まず必要としているかを見極めるために、しっかりと話を傾聴している。それにより他のサービスが必要かを検討している。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	食事を一緒に作ることや掃除を一緒に行うことにより、その人の本来持っている能力や今でも出来る事を見つけてやってもらっている。そのことにより、一方的に介護する、介護される関係ではなくなってきている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご家族が施設に泊まれる場合などにはご家族にも食事を提供するなどの配慮をしている。また、入居されていないが、身内の方が認知症であり、対応に困っているなどの相談にも真摯に対応している。そのことにより、良い関係を築いている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	利用者様のご家族や友人、知人の方のご面会も多く、自宅への一時帰宅なじみの商店やスーパー、飲食店、美容室への外出も積極的に行っている。	利用者に馴染みの美容院を聞き、希望に沿って対応している。また、幼稚園の園長をされていた方には幼稚園の運動会にお連れする等、それぞれの思い出の場所や、ケーキ屋・回転ずし・喫茶店・自宅周辺などへ外出し、関係が途切れないよう支援している。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	調理を共同することにより、利用者様同士の関係が円滑になっています。社交的でない利用者様も他の利用者様の行動を見ているだけでも、ここで生活して良かったと感じられるのであればその考え方を尊重していきたいと思っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	他の施設や病院、また自宅に帰られた方にもご家族にご連絡している。病院に入院された方にはお見舞いに行くことをしている。また他施設の職員の方にも情報提供を行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	起床時間や就寝時間は決めておらず、利用者様の希望する時間に少しでも近づけるよう務めている。	思いや意向を把握するために、項目の多い「センター方式」のアセスメント表を使用している。外出したい場所や食べたいもの・どのように暮らしたいかなど多くの項目で思いや意向を聞いている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	美容院やかかりつけ医は入居前の行きつけのなじみ深い場所へ行っている。また、自宅のある地域の敬老会や盆踊りなどに参加して頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	心身状態を把握するために毎日、バイタル測定を行っている。また、掃除や洗濯、調理・買い物など生活の中から有する力を見極めるようにしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	職員会議、ケア会議の際、一人1人に適したケアを話し合い、計画している。職員全員、時には家族の協力のもと、支援に取り組んでいる。新たな残存機能に気付くとプランに取り入れている。	個別のアセスメント表をもとに、意向や思いを把握し、介護計画表を作成している。定期的実践記録をもとに評価している。利用者の潜在能力を活かし、手作りの料理を3食作っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	ケアプランを中心に支援を行い、日々の様子を個別記録に記載する。変化等が見られた時、詳しく記載し、全職員で共有し、より個別ケアを実践していく。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅で飼っておられたペットを施設で飼うことにより今まで通りの生活を実現する。職員と共に外出することにより外部の方と触れ合ってもらったり、小学校の下校時の見守りをする事により、地域の方とも触れ合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	運営推進会議に市の職員や包括支援センターの職員の方が参加されているので、その中で話し合いを持っている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者様及び家族の希望を優先した受診支援を行っている。介護職員が通院に同行し、普段の様子を医師に伝えている。帰設後は上司に医師からの連絡事項を報告している。また、受診報告書を記入することにより、皆で共有している。	利用者一人ひとりのかかりつけ医を聞き、継続した医療が提供されている。事業所には看護師が常駐しており、医療を連携が整い適切な医療を提供できるようにしている。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	介護職員は気づいた事があれば、直ぐに看護師に報告・連絡・相談している。利用者様が健康でより良い生活を送れるように協同作業を行っている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には情報提供を医療機関に行っている。また、入院中から退院後の生活のあり方やケアのあり方について協議している。入院中は職員がお見舞いに行っている。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	本人・家族の意向を第一に考え、随時家族と話し合いを持っている。話し合いの内容については全体会議やケア会議で共有している。	重度化や終末ケアについて、確認書を用いて意見をもらっている。近隣の病院との連携もとれ、医療施設との連携体制も整っている。高齢化や重度化により、家族から要望があり、事業所での看取りが増えつつある。事業所には看護師が勤務している。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	毎年、4月の避難訓練時に救急救命の講習並びに、AEDの使用実践講習を行っている。また、急変時や事故発生時の対応マニュアルがあり、それに添って実行している。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の防災・避難訓練を行っている。反省点を検討し、次の訓練に反映させている。本年は夜間の訓練を地域住民と一緒に行う予定である。備蓄についても毎年、数量と種類を増やして行っている。	防災訓練を、年2回行っている。事業所は市街地にあり、昼夜の火災想定訓練が行われている。マニュアル・備蓄もある。津波や洪水の危険性は少ない。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	着替えやトイレ等の見られたくない羞恥の部分ではカーテンやドアを確実に閉める。居室への訪室や物品を扱う時は声掛けと確認を取り、許可を頂いてから行う等、利用者様のプライバシーを侵害し不快な思いをさせない様心がけております。	利用者一人ひとりの呼び名や訪室する際の羞恥心への配慮がある。カーテンやドアの開閉など互いに気を付けるなど、プライバシーへ配慮が見られる。利用者一人ひとりに穏かさがあがる。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者様が本当に望んでいる事を声掛けで聞き出し、随時確認しつつ行い、本人の自己決定を尊重しております。また、声が出せない方に対しては、表情やし草等を注意深くみて、望んでいる事を読みとり、介助を行っております。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	日常生活で介助において、全てお手伝いさせて頂くのではなく、本人が出来る部分を活かしご自分のペースで行って頂く様にし、その事への達成感を感じて頂き、その日が充実したものになるよう支援しております。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床の際には好きな服を選んで更衣して頂き、洗顔等の1日の始めの支度をご自分で行えるよう声掛けや介助を行っております。また、なじみの美容室や散髪屋に行かれていた利用者様は行きつけにて綺麗にして頂いています。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	料理を利用者様で協力して作ったり、1つの食卓をみんなで囲んだりして食べて頂いている。作るのも、食べるのも、達成感やご自分で作ったという満足感につながり、利用者様の笑顔が増えている。	開設当初より手作りの料理を3食提供している。利用者の潜在能力を見出し、食べたいものを聞く・買い物・皮をむく・片づけなど一連の流れの中で食事の支援が行われている。利用開始時は流動食やお粥が多かったが普通食になった利用者が多い。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	月々の水分量を元にして500cc未満の方は職員が寄り添い、500cc以上摂取して頂く様に声掛けを行っている。栄養が偏らない様に、食事量の少ない方は高カロリーゼリーやクッキー等簡単に食べられるものを提供する。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	少して美味しく食事して頂ける様に口腔内が気になる利用者様には歯科へ受診して頂き、口腔ケアやマッサージを教えて頂き、毎食前や後に実施している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンを把握し必要な方には時間をみてトイレはご案内をしている。排泄を失敗された時には温タオルで清拭を行い、清潔の保持に努めている。	事業所は2ユニット(18人)あるが、常時おむつの使用者はいない。個々の排泄パターンを把握し、自立に向けた取り組みを行っている。半数は排泄の自立が図られており、活性化している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	一人ひとりの排便状況を把握し食事の工夫や水分補給に努めている。少しでも体を動かす様に外出等を多くし心かけている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	一人ひとりの身体状況に合わせて、朝、昼、夜、毎日朝10時～21時まで入浴ができる様に提供している。状況によって足浴や部分浴、温タオル清拭を行い、清潔の保持に努めている。	入浴時間を決めず、入りたいときに入れるようにしている。毎日入る(2～3人)・夜間入浴(2～3人)など、朝10時～21時まで入ることができる。足浴・部分浴・清拭なども行っている。特殊入浴室も設置されているが現在は使用者はいない。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	一人ひとりの生活習慣を把握し体調や状況により、自由に休息が出来る様にしている。晴れの日には布団を干し、気持ちのいい布団に休息して頂き、就寝前はパジャマへ更衣をゆっくりできる様にしている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を整理し、内容を把握する。内服の見守りや状況変化が見られた時には看護師に報告すぐに対応できるようにしている。服薬や、誤薬時の対応等を研修し、職員で共有している。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	アセスメントしながら、一人ひとりの力を発揮できる分野で役割を楽しみとし実感して頂く。レクや園芸、外出で日々の生活の中に楽しみを感じて頂く。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	買い物に日々行ったり、外食やドライブ、臼杵市のイベントに参加をしている。生活感あふれる支援をしている。一人で外出される際も後ろから見守り、無理に行動を止めたりしない様にしている。	いつでも外出できるようにしており、コンサート・図書館・道の駅・いちご狩り・寿司屋・ケーキ屋・喫茶店・故郷の自宅周辺・四季折々の外出などがある。異常行動時は職員が察知し、さりげなく外出を支援している。個別対応が主である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	買物に行き利用者様に支払をして頂く。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族より贈り物があつた際はご本人に電話にてお礼の電話をして頂いたり、ご家族への電話もして頂いている。年賀状や、暑中見舞いを書いて頂く。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	通行の妨げにならない様に障害物を置かない様にし、季節の感じられる飾り物や写真等を飾る。トイレ等汚れた際にはその都度掃除をする。	広々とした庭には、花や植木が植えられ、ウッドデッキでくつろげるようにしている。外出や参加した行事のときの写真が貼られ、木の温もりが伝わる共用空間の中で利用者がそれぞれおしゃべりや野菜の皮むきなどで楽しんでいる。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	フロアは2ヶ所あり、フロア内で3~4個の2~3人がかけられるソファを少し離れた場所に設置し一人一人の居場所作りを行っている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	以前から使用されていた物の持ち込みに極力して頂き愛犬と入所された方にもそのまま同居生活をして頂く。	2名の利用者が愛犬を部屋で飼っている。また、仏壇や利用者の生け花が置かれたり、ジョイントマットを敷き自由に動きやすいようにしている部屋もある。活躍していた若い頃の写真を飾るなど、個々の生活歴が見えてくる部屋づくりである。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	入居者様の身体機能に応じ個室内にジョイントマットを敷く等自ら動きたい行動を妨げず、かつ安全に配慮している。		